

第1章



復旧・復興トピックス

令和元年度における国・県・土木部の
主な出来事について時系列で記載して
います。

国・宮城県・土木部の9年目の歩み

平成31年4月

国・宮城県全体のトピックス

1日：震災復興計画「発展期」2年目がスタート

7日：気仙沼大島大橋 開通

大島架橋事業は、大島地区の住民が東日本大震災時に長期間にわたり孤立を余儀なくされるなど、その必要性が再認識されたことから、復興のシンボル事業として、平成23年度から進めてきました。今回の開通により、大島と本土が陸路でつながり、大島地区住民の日常生活における利便性の向上や救急医療活動への支援、観光交流や産業の活性化などが期待されます。



22日：浜風親方の知事表敬訪問

大相撲夏巡業「東日本大震災復興支援 令和元年夏巡業 大相撲仙台場所」を開催するにあたり、仙台出身の元五城楼・浜風親方が村井知事を表敬訪問しました。浜風親方は「仙台市で大相撲の夏巡業を開催するのは今年で5回目になる。仙台市での夏巡業を継続することで、他県の方も相撲を見に来るようになった。相撲を起爆剤として復興支援につながればと思う」と報告しました。



26日：矢本海浜緑地 開園

県立都市公園矢本海浜緑地は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受け、休園を余儀なくされておりましたが、東松島市大曲地区にて移転再整備を行い、平成31年4月26日に再開園しました。



土木部のトピックス

1日：辞令伝達式 開催

自治法派遣職員47名に対して、土木部長による辞令伝達を行いました。



18日～19日：自治法派遣職員研修 開催

自治法派遣職員を対象として、宮城県の被災状況、復興状況等の現状と、宮城県での実務に関する研修を開催しました。

25日：ダム情報伝達連絡会 開催

洪水警戒時に情報を正確かつ迅速に伝達し、住民の安全、安心を守るため、河川管理者及び栗原市等の防災関係機関担当者による連絡会を開催しました。



26日：冬期通行規制解除 国道398号開通式

開催

(主)築館栗駒公園線は23日に、国道398号と(一)岩入一迫線は三日後の26日に冬期通行規制区間を開通させました。国道398号は今年度もGW前に、栗原市と湯沢市の共催により、花山温湯ゲート前で開通式が開催されました。



26日：蔵王エコーライン 開通

3月から除雪を始めていた県道白石上山線蔵王エコーラインの冬期通行止めが解除され、開通式が行われました。



国・宮城県全体のトピックス

9日：「キリンチャレンジカップ2019」

ひとめぼれスタジアム宮城で「キリンチャレンジカップ2019」が開催されるにあたり、サッカー日本代表・森保一監督が村井知事を表敬訪問しました。森保監督は「被災された方々の励みになるようなサッカーができれば」と意気込みを語りました。また、森保監督から村井知事へサイン入りユニフォームが贈呈されました。



14日：宮城県治水協会・宮城県砂防協会
合同通常総会 開催

仙台市内にて、佐野副知事、中島県議会議長等の来賓を迎えて開催しました。総会に引き続き、宮城県治水大会及び宮城県砂防大会も開催しました。



27日：宮城県と東京都の水道事業に関する連携
について

村井知事と小池東京都知事は、宮城県と東京都の水道事業の連携に関する合意書を交わしました。村井知事は「東京都からは震災復旧、復興において手厚い支援をいただいた。東京都が持つ高い技術やノウハウの提供を受け、さらに水道事業の基盤強化に取り組んでいきたい」とあいさつしました。小池知事は「宮城県と東京都の双方の強みを生かし、真の地方創生に向けた共存モデルを実現していきたい」とあいさつしました。



土木部のトピックス

24日：七ヶ浜海岸花浜地区海岸
災害復旧工事 完成

七ヶ浜海岸花浜地区の災害復旧工事が完成しました。この工事の完成により平成27年度から進めてきたL=268mの海岸防潮堤の災害復旧事業が完了しました。



28日：女川町横浦地区の造成工事 完成

女川町横浦地区の開発行為完了検査及び公告を行い、防災集団移転促進事業のうち、県の開発許可が必要な地区は全て造成工事が完了しました。



29日～31日：新任職員研修 開催

令和元年度に採用された新任職員（34名）を対象として、土木部の概要や共通仕様書、建設業法令等の実務的内容の研修、実際の復興事業の現場見学等を実施しました。



31日～6月6日：みやぎの復興まちづくり
パネル展 in 千葉県 開催

5月31日から6月6日まで、千葉県後援の下、千葉市の複合施設「Qiball(きぼーる)」において「みやぎの復興まちづくりパネル展」を開催しました。今回は、当室のパネル30枚、本県防災砂防課の「3.11 伝承・減災プロジェクト」パネル12枚に加え、千葉県応援派遣職員の方が取り組まれた復興事業について紹介するパネル4枚も展示しました。



国・宮城県全体のトピックス

7日：太平洋セメント株式会社と包括連携協定
締結

宮城県と太平洋セメント株式会社は、持続可能で活力ある地域社会の実現と県民サービスの向上を目的とした包括連携協定を締結しました。太平洋セメント株式会社の不死原代表取締役社長は「当社が持っているセメント工場や環境技術を有効に活用し、地域の発展に貢献できれば」と述べました。

9日：みやぎ県北高速幹線道路Ⅳ期(築館工区)
開通

「みやぎ県北高速幹線道路Ⅳ期(築館工区)」が開通しました。築館工区は、築館東ICから栗原市中心部の国道4号築館バイパスまでの約1.7kmの区間であり、平成25年度より整備を進めてきました。今回の開通により、栗原市・登米市間のアクセス向上や栗原市中心部の交通渋滞の緩和が見込まれます。



10日：東北地方整備局長と知事との意見交換会

復旧・復興事業に関わる継続的な財政支援や地方創生・国土強靱化に向けた予算の確保等について意見交換を行いました。



28日：(国)398号「志津川復興道路」の供用開始

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた志津川地区のまちづくりと連携し、復興道路として国道398号の整備を行い、6月28日に全線供用を開始しました。これにより、志津川市街地へのアクセス向上が期待されます。



土木部のトピックス

5日～：「土砂災害危険箇所パトロール」実施

毎年「土砂災害防止月間」である6月に、県民に土砂災害の危険性を認識してもらうことを目的として、宮城県砂防ボランティア協会や各市町とパトロールを実施し、周辺住民等へ斜面の現況等を説明するとともに、緊急時の早期避難を呼びかけるなど危機意識の醸成を図りました。



12日：令和元年度 土木部防災訓練 実施

今後起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の向上をはかるため、「みやぎ県民防災の日」に合わせて土木部防災訓練を実施しました。同時に土木部業務継続計画(BCP)の確認を行いました。



17日：超過洪水対応演習 実施

管理4ダム(花山、栗駒、荒砥沢、小田)において、平成30年に山形・秋田で発生した梅雨前線豪雨等を事例として、超過洪水のただし書き操作に必要な予測計算や、ゲート開度設定等の机上訓練を実施しました。(H31計5回実施)



30日：(一)馬場只越線 只越橋 開通

東日本大震災で甚大な被害を受けた只越川の河川災害復旧工事に伴って架け替えられた「只越橋」を含む(一)馬場只越線が完成し、地元住民が参加した開通式を行いました。橋名板は、地元小学生が橋梁名等を記載し設置しました。



国・宮城県全体のトピックス

18日：令和元年度 宮城県建設工事表彰式・
事故防止対策推進大会 開催

宮城県建設工事表彰式では、「優良建設工事施工業者」及び「建設工事事故防止優良者」が表彰されました。宮城県建設工事事故防止対策推進大会は、事故防止対策の推進と工事関係者の安全意識の高揚を図り、建設工事における事故防止に寄与することを目的として開催しました。



24日：東京2020大会開催まであと1年！

記念セレモニー 開催

東京2020大会開催1年前を記念し、カウントダウンボードの除幕式が県庁で行われました。村井知事は「いよいよ東京2020大会まであと1年。県民の皆さんには、世界レベルのプレーが堪能できる世紀の一瞬を見てもらうとともに、世界中から訪れる観客の皆さんへ元気な宮城を発信する一翼を担ってほしい」とあいさつしました。

25日～8月2日：2019夏休み！小学生と保護者の
親子現場見学会 開催

工事現場の見学や体験コーナーで建設機械等に触れるなど「ものづくり」の楽しさを体験していただき、建設産業の魅力と役割について理解していただくため、小学生とその保護者を対象に「親子現場見学会」を開催しました。7月25日～8月2日で7日間実施し、延べ299名の方々にご参加いただきました。



土木部のトピックス

9日：(主)石巻鮎川線 小網倉浜復興道路 開通

小網倉浜復興道路は、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市小網倉浜地区と清水田浜地区へのアクセスを担う復興道路です。開通式には関係者をはじめ地元住民が参加し、新たな復興道路の開通を祝いました。



16日：桜川河川災害復旧工事 完成

東日本大震災で被災した桜川の災害復旧事業として、河川と県道・町道の整備を一体的に行いました。河川堤防はL1津波対応の堤防となっており、7月16日に工事が完成し、7月31日に県道の交通開放を行いました。



18日：(主)奥松島松島公園線

社会資本整備総合交付金事業（復興枠） 完成

経年劣化したモルタル吹付けを改修する災害防除工事が完成しました。この工事の完成により平成29年度から進めてきた手樽地区の社会資本整備総合交付金事業（復興枠）が完了しました。



20日：中島海岸 小泉海水浴場 再開

東日本大震災で被災した気仙沼市中島海岸の「小泉海水浴場」が再開されました。中島海岸では、平成30年5月に計画高T.P. 14.7mのL1防潮堤が完成し、その後、海水浴場の再開に向けて、防潮堤背後に駐車場等の整備（市）や津波等表示板の設置を行ったものです。



国・宮城県全体のトピックス

9日：大規模災害時における建設発生土の
受入に係る情報提供等に関する協定 締結

宮城県土木部と宮城県建設発生土リサイクル協同組合は、大規模災害発生時の災害復旧工事の実施にあたり、現場で発生した建設発生土の受入に係る情報や応急資材の提供等について協定を締結しました。



18日：2019夏休み！小学生と保護者の

おうちづくり学校見学会 開催

塗り壁(こてを使って塗り上げる作業)やレンガ・タイル張りなど、家づくりの技能を体感していただき、建設産業の魅力と役割について理解していただくため、小学生とその保護者を対象に「おうちづくりの学校見学会」を開催しました。20名の方々にご参加いただきました。



21日：客船「オーシャンドリーム」寄港

株式会社ジャパングレイスが運行する客船「オーシャンドリーム」(総トン数 35,265t, 全長 205m)が8月21日に仙台塩釜港石巻港区(雲雀野中央ふ頭)に寄港しました。オーシャンドリームは平成25年依頼、6年ぶり2回目の寄港となりました。当日は、入港時の歓迎イベントとして地元市町のゆるキャラなどが描かれた大漁旗によるお出迎えや「雄勝町伊達の黒船太鼓保存会」の皆さんによる演奏が行われました。オーシャンドリームは、花火が打ち上がる中、たくさんの人々にペンライトで盛大に見送られ、神戸港へ向け出航しました。



土木部のトピックス

6日～8日：出前講座(栗原市自主防災組織)

開催

旧町村ごと10箇所で開催された栗原市危機対策課主催の「自主防災組織代表者会議」においてダムの役割等について説明を行い、防災・減災に対する理解を深めて頂きました。(10会場, 200名出席)



9日：(都)源光町田線道路改良工事 完成

当該区間は、未改良区間 L=200mについて平成26年度から歩行者の安全性向上及び交通の利便性の向上を図るため、現道拡幅工事を行いました。通学児童等歩行者の安全性向上及び築館地区中心部の交通の利便性の向上を図るとともに、地域の活性化に寄与するものです。



19日：環境アドバイザー現地検討会 開催

東日本大震災の復旧・復興工事の実施にあたり、環境の各分野の専門家・学識経験者の方々を「宮城県環境アドバイザー」として登録し、環境配慮事項について、助言・指導を頂きながら、工事を実施しています。令和元年度は、全4回の現地検討会を開催し、環境への配慮を行っています。



28日：技術管理説明会 開催

県、市町村の技術職員(149名)を対象として、土木工事標準積算基準書の改定内容や復旧・復興事業の円滑な施工確保対策に関する事項等についての説明会を開催しました交流の更なる活性化が期待されます。



国・宮城県全体のトピックス

21日：第18回港湾感謝祭 開催

第18回港湾感謝祭が大手ふ頭で開催され、多くの方が来場しました。当日は、ウェルカムフェスタ2019も同時開催され、「ばしふいっくびいなす」が入港し、宮城県石巻高校の書道部による書道パフォーマンスなどの歓迎イベントも開催されました。



22日：迫川フェスティバル'19 開催

第30回長沼レガッタ大会にあわせ、レガッタ会場の長沼フットピア公園にて長沼ダムの役割を紹介するパネル展示やクイズ大会等を行い、子供たちから親御様まで、長沼ダムへの関心を深めていただきました。



23日：石巻市・南浜津波復興記念公園で植樹祭 開催

市民団体が構成される参加型維持管理運営検討協議会が主催となる「第3回石巻復興の森づくり植樹祭2019」が開催され、約800人の参加者により約7,000本のクロマツなどの苗木を植栽しました。



26日：(主)相馬亘理線(坂元工区)の一部区間 供用開始

平成24年度から事業を進めている相馬亘理線の復興交付金事業において、福島県境からL=790m区間の供用を開始しました。



土木部のトピックス

17日～10月4日：東日本大震災からの復興まちづくりパネル展 ～いわて・みやぎ・ふくしま～ in 福島県 開催

復興が進む岩手・宮城・福島の“今”，そして震災の記憶を次の世代に伝える新たな企画として3県合同のパネル展を福島市の「コラッセふくしま」及び福島県庁で開催し、多くの方々に復興の状況をお伝えしました。



17日：二級河川津谷川 第3回環境学習 開催

小泉小学校3～4年の児童を対象に、今年度も3回(6月・7月・9月)津谷川周辺で野外活動を行い、捕獲したチョウの観察を実施しました。



26日：設備部門別専門研修 (ダム・河川設備等部門) 開催

若手設備職員の技術力向上のため、「積算業務(ダム・河川施設)」について演習を実施しました。



30日：佐賀川水門の本体整備 完了

田尻川との合流部付近で整備を進めてきた佐賀川水門の本体整備が完了しました。引き続き、築堤や護岸等の整備を図り、沿川地域における浸水被害の軽減を図ります。



国・宮城県全体のトピックス

7日：大崎市古川七日町西地区第一種市街地
再開発事業 安全祈願祭 開催

大崎市古川七日町西地区を対象とした市街地再開発事業の安全祈願祭が開催されました。再開発区域は、複合施設や共同住宅等を建設します。古川七日町の新たな地域コミュニティの場となっていくことが期待されます。



10日：(一)石巻工業港矢本線 定川大橋 開通

東北地方太平洋沖地震の発生に伴う大津波により、橋桁が流出した(一)石巻工業港矢本線の定川大橋は、平成23年度より災害復旧工事を進めてきました。開通に伴い、石巻圏域内の安全・安心な交通を確保するとともに、石巻工業港の東西アクセスの向上が図られます。開通式では、矢本第2中学校の生徒の皆様がデザインした橋名板がお披露目され、渡り初めを行い、新しい定川大橋の開通をお祝いしました。



30日：タイ国際航空「仙台ーバンコク線」

就航再開

「仙台ーバンコク線」定期便の約5年半ぶりの就航再開を祝し、セレモニーが開催されました。県では、東北各県の自治体・経済界等と緊密に連携し「仙台ーバンコク線」の需要喚起に向けたプロモーション等に取り組んでいきます。



土木部のトピックス

9日：防災対応力研修～災害復旧実務応用講座～
実施

全国各地で発生している局所的大規模災害への対応力を向上させるため、県・市町村等職員を対象に国土交通省防災課の基準係長から「最近の防災行政の動向について」、災害査定官から「わかりやすい災害復旧事業」の講演をいただき、災害発生時の対応や心構え等を学びました。



18日：(国)直轄権限代行による道路啓開

(国)349号は令和元年東日本台風で甚大な被害があったことから、「道路法第48条の重要物流道路等の管理の特例」に基づき、国土交通省が道路啓開を代行しました。今回の道路啓開は、重要物流道路制度創設後、全国初めての取組みとなります。



23日：一級河川名取川水系北貞山運河

災害復旧工事 完成

北貞山運河河川災害復旧工事(その2)のL=4.5kmが完成しました。この工事の完成により平成26年度から進めてきたL=5.0kmの北貞山運河河川災害復旧事業が完了しました。



30日：「くりこま絆の森植樹プロジェクト」 開催

平成20年6月の「岩手・宮城内陸地震」による犠牲者の鎮魂と失われた緑地の再生、堆積した土砂の流出防止を目的に、土砂災害により被災した耕英東地区(駒の湯温泉)において、植樹会を開催しました。この取り組みは平成25年から実施しており、今年は地域住民や関係団体等、約90名が参加し、ブナやナラ、ハンノキ等の苗木約800本を植樹しました。



国・宮城県全体のトピックス

2日：中国国際航空「仙台－大連－北京線」 就航
中国国際航空による「仙台－大連－北京線」の約7年ぶりの就航を祝し、11月2日にセレモニーが開催されました。この就航により、宮城県をはじめとする東北地方における旅行需要が喚起されるほか、中国からの誘客が促進されることで、インバウンド・アウトバウンド両面からの人的交流の更なる拡大が期待されます。

**3日：建設ふれあいまつり 開催**

将来の建設業界を担う小・中学生及びその保護者を対象に、建設産業を身近に感じていただくためのイベントを開催し、約4,000名の方に来場いただきました。

**5日：サントリーホールディングス株式会社からの義援金贈呈**

サントリーホールディングス株式会社から台風19号の被災に対して義援金の贈呈がありました。サントリー酒類株式会社の森潤一東北支社長は「台風19号により甚大な被害が発生した。一刻も早い復旧を願います」とあいさつしました。

**12日：CGCグループからの第38回全国児童画コンクール寄付金贈呈**

CGCグループから「第38回全国児童画コンクール」寄付企画による東日本大震災みやぎこども育英基金への寄付金贈呈がありました。CGCグループは全国の中堅・中小スーパーマーケットで構成する協業組織で、この寄付企画は東日本大震災発生から平成23年から開始され、これまでに宮城県、岩手県、福島県の被災児童向け育英基金に寄付されています。



土木部のトピックス

8日：令和元年台風19号により被災した河川管理施設等の技術検討会（第1回）

令和元年東日本台風により、県内各地の河川管理施設に被害が発生しました。特に丸森町においては、記録的な豪雨となり、その流域である内川、五福谷川及び新川では、18か所の堤防が決壊するなど、甚大な被害となりました。このため、堤防決壊に至った要因分析と、その結果を踏まえた復旧工法等について意見を伺うことを目的として、学識経験者や有識者により構成される「令和元年台風第19号により被災した河川管理施設等の技術検討会」を開催しました。

**10日：水門・陸閘自動閉鎖システム 運用開始**

津波注意報や津波警報、高潮警報等の発表時に現地で人が操作することなく、水門・陸閘のゲート閉鎖を行うことができるよう通信ネットワークを構築し、安全かつ迅速・確実に自動で閉鎖するシステムをつくりました。令和元年11月10日には、東名水門（東名運河）において、宮城県第1号として自動閉鎖システムの運用を開始しました。今後も順次、沿岸部の水門や陸閘の整備を行い、運用を開始していきます。

**12日～2月7日：第1次～第8次災害査定 実施**

10月12日～13日にかけての台風第19号（令和元年東日本台風）により被害が発生した公共土木施設について災害査定を実施しました。県市町村合わせて1,790件、41,173,896千円の査定決定となりました。

**22日：水戸辺川河川外災害復旧工事（その1工区）完成**

東部土木事務所登米地域事務所が気仙沼土木事務所管内の震災業務支援として事業の管理監督を行っている、南三陸町戸倉地区の水戸辺川災害復旧工事（その1工区）が完成しました。



国・宮城県全体のトピックス

4日：RORO船「神珠丸」初入港

栗林商船(株)所有の「神珠丸」(14,502トン)が就航し、仙台塩釜港(高松2号ふ頭岸壁)に初入港しました。



7日：令和元年度「みやぎバットの森」植樹祭

開催

宮城県は、プロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が本県に誕生した平成17年から、同球団の活躍と地域に密着した野球文化、みどりの文化の末永い発展を願い、県内各地にバットの材料となるアオダモを主とした広葉樹の森づくりに取り組んでいます。15年目を迎える今年は、南三陸町と(公社)宮城県緑化推進委員会の共催で、南三陸町の町有林において、楽天イーグルスの中濱裕之、岩崎達郎両アカデミーコーチ、各協賛企業の皆さん、地元スポーツ少年団や野球クラブなどから約140人が参加し、アオダモの苗木100本を植樹しました。



20日：震災復興・伝承みやぎルートへの決定

宮城サイクルツーリズム推進協議会(事務局：仙台河川国道事務所・宮城県)は、自転車活用推進法に基づき、自転車と観光を組み合わせたサイクルツーリズムの推進に取り組んでいます。今回、東日本大震災の被災地を巡る沿岸部約280kmを「震災復興・伝承みやぎルート」として設定しました。沿岸部の漁業・海産物等の魅力を生かしつつ、震災の遺構や伝承施設等を巡るコースであり、自転車を通じた震災の記憶の伝承や地域活性化に取り組んでいます。

31日：コンテナ取扱貨物量が過去最高記録を更新

平成31年1月から令和元年12月までのコンテナ取扱貨物量が、5年連続で過去最高となる約28.9万TEUとなりました。



土木部のトピックス

6日：UAV(ドローン)を配備

立ち入りに危険を伴う場合や、地上からの調査では被害の全貌把握が困難又は時間を要する場合等に、迅速に被災状況を把握する有効な手段として活用されるとともに、公共施設の維持管理等においても、高所や広大な敷地等の巡視・点検等に活用することなどを目的とし、土木事務所とダム事務所にドローンを計10台配備しました。



13日：下羽沢災害防除工事 完成

道路防災点検の結果等に基づき、道路斜面の災害防除工事を行っています。登米管内計画11箇所のうち、3箇所目となる(一)志津川登米線の下羽沢工区が完成しました。



21日：(主)岩沼蔵王線 大師・姥ヶ懐道路

志賀姥ヶ懐トンネル 開通

(主)岩沼蔵王線 大師・姥ヶ懐道路の志賀姥ヶ懐トンネルは平成24年度より社会資本整備総合交付金の復興枠事業として整備を進めてきました。開通に伴い、岩沼市と村田町のアクセスの向上が図られ、交通が安全なものとなりました。



26日：(一)大島浪板線の一部区間 供用開始

浪板橋から浪板2区防災集団移転団地入り口までの600mの区間については、のり面にひび割れが見つかり、地盤が弱いことも確認され、この区間だけ供用が延びていました。その後、夏から追加の強化工事が完了し、12月26日に供用を開始しました。



国・宮城県全体のトピックス

9日：(国)398号 崎山トンネル貫通式典 開催
 平成28年度より整備を進めてきた(国)398号の崎山地区において、トンネル本体の掘削が完了したことから、貫通式典が開催しました。県では、女川町石浜地内から桐ヶ崎地内に至る延長約1.0kmの区間を崎山工区として整備を進めています。本事業により町内の各防災集団移転地と中心部の医療拠点等が円滑に結ばれ、復興に寄与することが期待されます。



18日：第10回 復興加速化会議 開催
 国土交通省や復興庁など国の機関と、宮城、岩手、福島の被災三県、各自治体、建設業界団体等が出席し、東日本大震災からの復旧・復興事業の施工確保対策等について意見交換を行いました。



24日：令和元年度宮城県住宅・社会資本再生・復興フォーラム 開催
 宮城県における住宅・社会資本の復旧・復興について報告するとともに、住まいに係る復旧・復興事業を振り返り、将来に向けた課題や伝承すべきことについて考えていく機会とするため、本フォーラムが開催されました。基調講演として、国土交通省都市局市街地整備課の村上努企画専門官、石巻市復興事業部市街地整備課の草刈明彦課長にご講演いただきました。また、令和元年10月に発生した令和元年東日本台風について、東北大学災害科学国際研究所の森口周二准教授からご講演いただきました。



土木部のトピックス

17日：一級河川北上川水系南沢川流域の減災対策協議会幹事会 開催
 台風19号により大きな被害を受けた南沢川流域の防災・減災の取り組みを検討するため、国・県・市で構成されている「北上川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会[南沢川流域]」の第1回幹事会が登米合同庁舎にて開催されました。



21日：一級河川名取川水系増田川河川災害復旧工事 完成

増田川河川災害復旧工事L=97mが完成しました。この工事の完成により平成25年度から進めてきたL=1.9kmの増田川河川災害復旧事業が完了しました。



22日：気仙沼港災害復旧工事 完成

朝日地区の臨港道路工事が完成したことに伴い、気仙沼港の港湾施設および海岸保全施設の災害復旧工事が全て完成しました。



30日：(国)349号丸森地区

国が別ルートで本復旧

(国)349号は道路啓開に続き、国土交通省が権限代行で災害復旧事業を実施しており、「丸森地区防災対策技術検討会」で審議した結果、「山側への別ルート」で本復旧を進めることが決まりました。

31日：みやぎ県北高速幹線道路「紫雲山大橋」完成

復興支援道路として整備を行っているみやぎ県北高速幹線道路事業(第Ⅲ期・佐沼工区3.6km)において、迫川を渡河する紫雲山大橋の橋梁上部工工事が完成しました。



国・宮城県全体のトピックス

4日：令和元年度 第2回 七北田川水系河川整備学識者懇談会 開催

本懇談会は、七北田川水系の河川整備計画の見直しにあたり、河川に関する学識経験等を有する方々から、河川整備計画の内容について意見を聴くものです。これまで令和元年6月10日に第1回懇談会、同年10月9日に現地視察会を開催し、河川の現状・課題・河川整備の目標について整理したことから、第2回懇談会では河川整備計画の素案について議論を行いました。



13日：みやぎ復興住宅整備推進会議 開催

住宅・まちづくりに関する情報を関係機関で共有し、全国のモデルとなる復興住宅整備を目指すことを目的に、平成24年度から開催されている当会議を今年度はみやぎの住まいづくり懇話会を含め4回開催しました。



22日：花山ダム湖でワカサギ釣り(ドーム船)開始

花山ダム湖で、花山漁業協同組合が運営する宮城県内初となるワカサギ釣りドーム船の営業が始まりました。(予約制)

営業時間は8:00～16:00
営業期間は3月末まで。料金：大人3,000円/日、子供2,000円/日(※来シーズンはR2.11月から営業予定)。



24日：三陸沿岸道路(気仙沼中央IC～気仙沼港IC) 開通

三陸沿岸道路は東日本大震災からの復興のリーディングプロジェクトとして、国土交通省によって加速度的に整備が進められており、今回、気仙沼中央ICから気仙沼港IC間の1.7kmが開通しました。開通によって三陸沿岸道路と気仙沼港が直結することになり、水産業や水産加工業などの地域産業の復興を後押しするとともに、沿岸被災地の経済活性化や観光振興に寄与するものと期待されます。



土木部のトピックス

3日～18日：東日本大震災からの復興まちづくりパネル展～いわて・みやぎ・ふくしま～ in 岩手 開催

2月3日から2月18日まで「岩手県庁1階 県民室」において、「東日本大震災からの復興まちづくりパネル展～いわて・みやぎ・ふくしま～」を開催しました。9月の福島県開催に引き続き、「復興まちづくり」をテーマとして岩手県・宮城県・福島県の3県合同でパネル展を開催したものです。岩手県の多くの皆様に、宮城県を含めた被災3県の復興の姿を知って頂くことができました。



26日：総合運動公園大型映像装置 完成

供用から20年が経過し、大型映像装置の機能低下が顕著な状況だったことから、平成30年から2カ年計画でリニューアル工事を実施しました。

本工事で更新される大型映像装置は、既設同様にフルカラーLED方式ですが、性能が飛躍的に向上しています。



28日：「3.11 東日本大震災伝承板」を 仙台港区と松島港区に設置

震災の経験を風化させることのないよう後世に「ながく」伝承していくこと、また、今後発生しうる災害などに対する迅速な避難行動の啓発を目的として設置している「3.11 東日本大震災伝承板」を仙台港区(仙台向洋海浜公園内)と松島港区(松島グリーン広場内)に設置しました。今回設置したものを含め県内沿岸5市町5箇所に伝承板を設置しています。



仙台港区

松島港区

国・宮城県全体のトピックス

3日：みやぎ絆大使サンドウィッチマンからの
「東北魂義援金」贈呈

みやぎ絆大使のサンドウィッチマン伊達みきおさん、富澤たけしさんが、村井知事を表敬訪問し「東北魂義援金」を贈呈しました。「東北魂義援金」はサンドウィッチマンのお二人が、東日本大震災の被災者支援のため全国から募っているもので、2,100万円余りが「東日本大震災みやぎこども育英募金」に寄付されました。



7日：(国) 346号 錦織バイパス工区 開通

国道346号は三陸沿岸道路へのアクセスを担う重要な路線ですが、集落内を通過する錦織地区の現道は見通しが悪く幅員が狭いことから、バイパスの整備を進めてきました。開通によって安全で円滑な通行が確保され、地域間交流の強化や、産業・観光振興などに大いに寄与するものと期待されます。



11日：東日本大震災から9年（みやぎ鎮魂の日）

27日：貞山運河「桜」植樹会 開催

災害復旧事業が完了した中貞山運河沿いに官民連携で桜を173本植樹しました。桜を植樹することで運河に新たな景観を創出し、東日本大震災からの復興の象徴となるとともに、津波意識の醸成や津波体験の伝承を目的としています。



土木部のトピックス

2日～13日：東日本大震災からの復興まちづくり
パネル展～いわて・みやぎ・ふくしま～
in 宮城県 開催

2月の岩手県に続き、仙台市の青葉通地下道において、3県合同のパネル展を開催し、多くの方々に復興の状況をお伝えしました。

5日：高砂コンテナターミナルトラックゲート
新築工事 完成

東日本大震災により被災した高砂コンテナターミナルの拡張事業によるトラックゲート建替工事が完了しました。



22日：女川町・小乗浜復興道路 開通

平成24年度より事業を進めてきた小乗浜復興道路について、女川町小乗浜地区と高白浜地区を結ぶ事業延長L=1.2kmが開通しました。

26日：野々島地区海岸毛無崎地先海岸
災害復旧工事 完成

毛無崎地先海岸の災害復旧工事が完成しました。この工事の完成により平成29年度から進めてきたL=0.42kmの海岸防潮堤の災害復旧事業が完了しました。





宮城県土木部